

齋藤信治 (さいとう・のぶはる)

1973年9月29日、栃木県今市市生まれ（42歳）
北京オリンピック日本代表選手
現在、東レ建設勤務



□ポジション

ミドルブロッカー、オポジット

□学歴

宇都宮白楊高校→日本体育大→東レアローズ

□身長 205 cm □体重 96 kg

□略歴

- 1989年 宇都宮白楊高校入学
- 1992年 日本体育大入学
- 1995年 全日本入り。ワールドカップ出場
- 1996年 東レ(株)入社
- 1997年 ユニバーシアード出場
- 1999年 ワールドカップ出場
- 2004年 第11回Vリーグ（現V・プレミアリーグ）優勝（東レアローズ）
- 2006年 世界選手権出場
- 2008年 北京オリンピック出場、大会出場後、現役引退

□受賞歴

- 第9回Vリーグ（現V・プレミアリーグ）スパイク賞、ベスト6
- 第10回Vリーグ（現V・プレミアリーグ）スパイク賞
- 第11回Vリーグ（現V・プレミアリーグ）ベスト6

□人物像

宇都宮白楊高校時代はまったくの無名選手。強豪校だった同県の作新学院高校の織田監督にその長身を見込まれ、日本体育大へ。素人同然の選手が強豪校に進学し、当初はベンチ入りもできなかった。森田監督の指導の下、猛練習で徐々に頭角を現し、大学3年生で関東大学リーグデビュー。その長身を生かしたオポジット（スーパーエース）として、すぐに注目を集め、翌年（大学4年生）には全日本入りし、ワールドカップで国際試合デビューを果たした。

東レ入社後は、すぐにレギュラーを獲得し活躍。1999年のワールドカップでは日本のエースとして活躍したが、アテネ・オリンピック予選では敗退。チーム事情からミドルブロッカー（センター）にコンバートされると、高さを生かしたクイックで（Vリーグで）スパイク賞を2度獲得。2008年、ラストチャンスとして臨んだ北京オリンピック世界最終予選でアジア1位を獲得し、日本の16年ぶりのオリンピック出場権獲得に貢献した。

北京オリンピック終了後、現役を引退し、社業に専念。現在、東レ建設に勤務しながら、バレーボール界の指導普及に努めている。ニックネームはノブコフ205。